



令和 6 年度(2024)

ドイツ・ヴォルフラーツハウゼン市

青少年異文化体験訪問団(第 13 期)派遣事業

報告書



令和 6 年 8 月 1 日(木)~8 月 9 日(金)

入間市・入間市国際交流協会

# ドイツ・ヴォルフラーツハウゼン市 青少年異文化体験訪問団派遣事業

## 【事業の概要・目的】

ヴォルフラーツハウゼン市と入間市で、派遣と受入れを相互に行っている事業であり、今回の派遣事業は第13期生となっています。訪問団員は事前に各自学習テーマを決め、ヴォルフラーツハウゼン市側はそのテーマを可能な限りくみ取りプログラムを組み立て実施します。

高校生から大学生の若い世代が「異文化やその習慣を体験し理解するとともに、お互いを認め合う心を育むこと」、「入間市とヴォルフラーツハウゼン市の友好関係の発展に寄与すること」、「国際交流活動をはじめとする地域活動に積極的に参加する人材を育成すること」を目的に、入間市と入間市国際交流協会が共催で行っているものです。

## 【ヴォルフラーツハウゼン市とのあゆみ】

行政区分	バイエルン州(州都ミュンヘン)バート・テルツ=ヴォルフラーツハウゼン郡に属する
人口	約19,000人
面積	約9km <sup>2</sup> (豊岡地区程度)
観光	いかだ筏下り・自然美・各種スポーツ施設
姉妹都市提携年月日	昭和62(1987)年10月14日

## ●姉妹都市提携の経緯

入間市は、市制施行20周年記念事業の一環として、海外の都市との姉妹都市提携を検討していました。そこで候補の1つとして挙げられたのが、市内にあった武蔵野音楽大学と縁のあるヴォルフラーツハウゼン市でした。

ミュンヘンという大都市の近郊であり、市内に河川が流れ、音楽ホールを有するなど入間市との共通点も多くありました。「香り豊かな緑の文化都市」という入間市の目指す姿と合致したため、昭和62年10月14日に姉妹都市提携が行なわれました。その後、青少年異文化体験訪問団、市制施行周年式典、入間万燈まつりをはじめとする各種行事で相互に交流しています。



ヴォルフラーツハウゼン市庁舎





## 第13期訪問団とお世話になった方の紹介



ふじい あおい  
藤井 葵 (高校3年生)

リーダー

青少年訪問団のリーダーとして積極的に発言し、みんなを引っ張ってくれました。

★学習テーマ:ドイツ人の環境問題に対する意識、日常にある環境問題への取り組み

★ホストファミリー(デッカー家)

父:トーマス・デッカーさん

母:イルミ・デッカーさん

娘:パウラ・デッカーさん

娘:フランツィ・デッカーさん

娘:テレザ・デッカーさん



かねだ ちひろ  
金田 千紘 (大学2年生)

サブリーダー

サブリーダーとして、周りをよく見て気遣いながら、サポートしてくれました。

★学習テーマ:日本とドイツのSDGsへの取り組みの違い

★ホストファミリー(ブロイトナー家)

父:ローベルト・ブロイトナーさん

母:ズザンネ・ブロイトナーさん

娘:カタリーナ・ブロイトナーさん

息子:アレクサンダー・ブロイトナーさん





こんどう そうすけ  
近藤 壮輔 (高校1年生)

特技である大道芸ディアボロを披露しヴォルフラーツハウゼン市を沸かせました。

★学習テーマ:ドイツの環境への配慮や自然との共存方法、自然に対する考え方・価値観を学ぶ

★ホストファミリー(フリッツ家)

父:フィリップ・フリッツさん

母:ダグマー・フリッツさん

娘:アメリー・フリッツさん

息子:エリアス・フリッツさん



しのざき かい  
篠崎 快 (大学1年生)

写真記録担当

昨年度ヴォルフラーツハウゼン市の青少年が入間へ来た際にホストファミリーとして受け入れ、今回も積極的にコミュニケーションを取ることで、この青少年交流の重要性を感じさせてくれました。

★学習テーマ:日本と違った街並みと歴史と文化

★ホストファミリー(プフティンガー・レガス家)

父:ゲアハルト・プフティンガーさん

母:リディア・レガス・プイグさん

息子:ベンジャミ・プフティンガー・レガスさん

娘:マリア-リディア・プフティンガー・レガスさん

(Special Thanks:クリスティーナ・ルツプさん R5篠崎家受入)



かねこ ゆら  
金子 柚良 (大学3年生)

報告書担当

真っ先にホストファミリーと打ち解け、終盤には世話焼きな15歳のホストファミリーからお土産買すぎ!と怒られるほど仲良くなっていました。

★学習テーマ:歴史的建造物と庭園

★ホストファミリー(フリッシェ家)

父:ホルガー-ブリアン・フリッシェさん

母:コニー・フリッシェさん

娘:ラリッサ・フリッシェさん





ゆあさ りんか  
湯浅 凜花 (大学3年生)

お別れ会の際にふるさとの合唱ではピアノの伴奏を完璧に弾き、書道では入間とヴォ市の強い繋がりを表す「絆」という字を達筆に堂々と書きあげてくれました。

★学習テーマ:音楽文化、移民大国ドイツの現状と大きな戦争が起こっているヨーロッパ圏の現状

★ホストファミリー(ターラー家)

父:エルンスト・ターラーさん

母:ダイナ・ターラーさん

息子:ルイス・ターラーさん

娘:ヘレン・ターラーさん



たてこし あやか  
館越 彩香 (大学3年生)

※「館」の字のへんは「舎」

派遣中どの行程も全力で楽しみ、射撃体験では才能を発揮し、的のど真ん中を打ち抜いて、射撃Queenの名をほしいままにしていました。

★学習テーマ:ドイツ人と日本人の常識や価値観の違いを見つける

★ホストファミリー(ナミスロ家)

父:ローベルト・ナミスロさん

母:アンドレア・ナミスロさん

娘:ジュリア・ナミスロさん

息子:ルードヴィヒ・ナミスロさん



ヴォルフラーツハウゼン市



左)クラウス・ハイリングレヒナー 第1市長  
右)マルティン・メルフさん  
蚊遣り豚をお土産に。ドイツでは豚はラッキーアイテムとのこと。



手前左)第二市長夫人  
手前右)ギュンター アイブル 第2市長



左)ヘルガ・ハチベキログルさん  
真ん中)マルティナ・ホーンハイザーさん  
右)ペーター・ミュールバウアーさん



ダグマー・フリッツさん



ジモン・カレダーさん



通訳  
アレクサンドラ・フランクさん



子ども青少年協会  
フリッツ・マイクスナーさん

ヴォルフラーツハウゼン入間友好協会



入間友好協会会長  
ヴィゲール・ゴルヴィッツアーさん



左)ハンス・シュヴァルツェンベックさん  
右)ディートリント・ディーペンさん



モニカ・シュヴェンガーさん



カリン ロルさん



カリン ロルさんの孫 エレナさん・ハンナさん

## 随行



左)随行通訳

柴田 耕治さん

令和元年度に引き続き通訳としてたくさん  
のサポートをしてくださいました。

右)随行職員

地域振興課 主事

渡辺 理奈

## Special Thanks !



山本さん

以前ヴォオ市に住んでいたことがあり、ヴォオ市  
との交流の際に度々ご協力をいただいていた、山本さん。仕事でちょうどドイツを訪問  
していたことから、協力してくださいました！お会いできたのは1日だけでしたが、通  
訳などコミュニケーションの手助けをしてく  
ださいました。



地域振興課

牧野 尚人 副主幹

事前研修など準備の段階から大変お世話に  
なりました。本事業の隠れ MVP。牧野さん  
激推しの Spezi(ドイツの炭酸飲料)を13期  
生もドイツにて美味しくいただきました！

## 【派遣事業にかかる一連の日程】

○被派遣者の募集(申込書・作文提出)	令和6年2月1日～3月15日
○作文選考	令和6年3月18日～4月5日
○面接審査	令和6年4月14日 会場:市民活動センター イルミン
○選考結果通知	令和6年4月17日
○第1回事前研修	令和6年5月18日 午後6時～ 会場:産業文化センター ・事業概要、ヴォルフラーツハウゼン市の紹介 ・自己紹介、役割分担の決定 等
○入間市国際交流協会定期総会 	令和6年5月29日 午後6時30分～ 会場:Pleats. I ・総会後の会員交流会で派遣候補者の紹介
○第2回事前研修(FM 茶笛取材) 	令和6年6月8日 午後6時～ 会場:豊岡プチ大学 ・狭山茶 PR 団体ていぐりーより、狭山茶の美味しい淹れ方を学ぶ ・駿河台大学ドイツ人留学生との交流(英語で推しのお菓子紹介)
○第3回事前研修 及び 結団式 	令和6年6月29日 午後6時～ 会場:産業文化センター ・結団式での意気込み発表(FM 茶笛取材) ・派遣準備、令和元年度派遣者へ質問
○第4回事前研修	令和6年7月20日 午後6時～ 会場:産業文化センター ・派遣準備、派遣中の行程について
○派遣期間	令和6年8月1日～8月9日
○帰国報告会	令和6年8月23日 午後3時～ ・派遣中に学んだことを発表
○入間万燈まつり協力 	令和6年10月26日～10月27日 ・ヴォルフラーツハウゼン市万燈まつり訪問団の受入れ、世界のともだち広場協力



### 【第13期 訪問時の主な日程と行動記録担当】

日時	行動記録担当者	内容	
8/1(木) 04:30  09:40  17:00	篠崎 快	集合、出発セレモニー@入間市役所正面ロータリー (バスで羽田空港へ) ルフトハンザ航空 LH715 便(ミュンヘン直行便)離陸 ~~ここからドイツ時間 Δ7 時間~~ ミュンヘン空港到着 歓迎会	
8/2(金)	金子 柚良	ヴォ市第1市長歓迎レセプション 陶磁器絵付体験 養蜂場見学 射撃協会青少年交流	
8/3(土)	金田 千紘	テーゲルン湖 遊覧船 ヴァルベルク周辺散策 (ハイキング) チーズ工場見学	
8/4(日)	全員	ホストファミリーとの1日	
8/5(月)	湯浅 凜花	ミュンヘン市庁舎とその周辺 (教会、市場等)散策	
8/6(火)	近藤 壮輔	リンダーホーフ城見学 ベネディクト会エッタール修道院見学	
8/7(水)	舘越 彩香	ヴォ市子ども-青少年保護協会との交流・学習 お別れ会	
8/8(木) 12:40 日付変更	藤井 葵	ルフトハンザ航空 LH714 便(羽田直行便)離陸 ~~ここから日本時間 +7 時間~~	
8/9(金) 08:00 12:00	藤井 葵	羽田空港到着(バスで入間市役所へ) 到着@入間市役所正面ロータリー	



**1日目**  
**8月1日(木)**



1日目 8/1(木)

担当者:篠崎 快

時刻	場所	内容
4:30	入間市役所 集合	朝早くからの集合でしたが、みんなが期待と楽しみの気持ちを持って集合しました。
4:45	バス出発	朝が早かったためバスではみんな寝ていました。
7:00	羽田空港 到着	羽田空港では時間がありみんなと会話をして飛行機の緊張をほぐすことができました。
9:40	羽田空港 離陸	飛行機は久しぶりで緊張もありましたが飛行機内でも楽しむことができました。着陸時に機体が急降下したことがトラウマになりました。
17:00 (現地時間)	ミュンヘン空港 着陸	私にとって初めての海外で空港からでも日本とは異なる雰囲気を感じ取ることができました。
17:45	バス出発	ヴォ市の職員の方と通訳の方とのバスでの移動で飛行機で疲れて寝てしまいました。
19:00	歓迎会会場 到着	初めて、ホストファミリーと対面をしてとても緊張しましたが笑顔で話してくれたのでよかったです。
19:15	訪問団歓迎会	ホストファミリーとの会話がうまくいか不安がありましたが、ご飯を一緒に食べることによって場が盛り上がり仲良くなれました。
21:00	歓迎会終了	他のホストファミリーとの交流もすることができました。
21:15	ホストファミリー宅 到着	日本人がいない空間でしたが積極的に話すことができました。
22:30	就寝	飛行機の疲れを取ることができました。





**2日目**  
**8月2日(金)**



2日目 8/2(金)

担当者:金子 柚良

時刻	場所	内容
9:00	ヴォルフラーツハウゼン市役所	 <p>市役所で市長や市職員の方々とお会いしました。入間市とヴォルフラーツハウゼンの意見交換やヴォルフラーツハウゼンの環境についてやりサイクルなどの取り組みについて教えてもらいました。</p>
10:00	陶磁器絵付体験	 <p>セラミック・マル・アンダースに行き、陶磁器絵付体験をしました。自分たちの好きなお皿やコップ、置物などを選び絵を描きました。</p>
12:00	昼食	<p>お昼はアトスへ行きました。ドイツ語で全て書かれていたので何もわからなかったですが、ホストファミリーの子たちが詳しく説明してくれたのでみんな食べたいものを選ぶことができました。どれも美味しい料理でした！</p>
15:00	養蜂場見学	 <p>養蜂場見学をしました！ミツバチが自分の部屋に入ったり出て行ったりするのをすごく間近で見ることができました。巣から出ていく蜂の方が高く飛んでいき、入ってくる蜂の方が花粉を運んでくるため低く飛んでいることを教えてもらいました。</p> <p>その後、小屋に入り蜜露や蜂の巣を見て、蜂蜜や蜂の巣を食べました。</p>
16:30	休憩	<p>アイスクリームを食べにクリスタッロに行きました。それぞれ2種類のアイスフレーバーを選ぶことができました。すごく美味しかったです、とても甘かったので1ヶ月分の甘いものを摂取した気分になりました。</p>

17:00 射撃体験



射撃団や射撃の歴史について学びました。射撃の銃は4キロ程あったので、思いのほか重かったです。的の真ん中近くに撃てるとすごく気持ち良くなりました。みんなすごく上手く楽しかったです。



**3日目**  
**8月3日(土)**



3日目 8/3(土)

担当者:金田 千紘

時刻	場所	内容
8:20	マリエンプラッツ集合	
10:00	Tegernsee lake	 <p>遊覧船に乗って湖を一周しました。美しい山々に囲まれていて、風がとても気持ち良かったです。          ここは高級別荘地としても知られており、休暇を楽しんでいる人たちが多く見られました。</p>
11:45	昼食	 <p>Bräustüberl というレストランで食事をし、バイエルンの美味しい料理を楽しみました。昼食後は、レストランの隣の教会を見学しました。ちょうど結婚式が行われていて、日本とは異なるスタイルの教会での結婚式を見ることができました。</p>
13:40	Wallbergbahn	  <p>ロープウェイで山頂まで行きました。山頂には展望レストランや教会があり、テーゲルン湖を見下ろすことができます。天気が良く、パラグライダーを楽しむ人もいました。          ロープウェイの駅よりさらに高い場所は、歩いて登ることができます。頂上が近づくほど足元が悪くなり大変でしたが、上から見た景色は素晴らしかったです。</p>



16:20	Naturkäserei TegernseerLand		<p>予定にはありませんでしたが、酪農場に行きました。ここではチーズの製造から販売まで行われており、チーズの製造方法が学ぶことができました。熟成庫には数えきれないほどのチーズが並んでいました。</p>
18:00	ヴォルフラーツハウゼン市 到着		



# 4日目 8月4日(日)

各ホストファミリーと過ごした1日(担当者:全員)



4日目 8/4(日)

担当者:藤井 葵

時刻	場所	内容
10:30	朝食 ホストの家	 <p>ドイツに来て初めてゆっくり過ごした朝でした。この日はホストシスターと一緒にパンケーキを作りました。ホストマザー手作りのジャムと一緒に食べました。</p>
11:00 -11:50	移動 ホストの車	<p>家が隣の金田さんファミリーと一緒にドイツの昔の家を見ることができる公園に行きました。車の速度が 170km ですごく驚きました。</p>
12:00 -15:00	公園散策	<p>1734 年に建てられた家や水車などを見ました。倉庫に置いてあったかかしがヨーロッパの方のお顔をしていて素敵でした。パンを焼いたり、私が日本から持ってきたカステラをみんなで食べました。</p>   
16:00 -17:30	スライダー スキー場	<p>金田さんファミリーとお別れをして、スキー場に行きました。ここでは夏の間、スライダーやビーチバレーをすることができます。初めてのスライダーだったので怖くて何度もブレーキをかけてしまいましたが、とても楽しかったです。</p>
18:30	夕食 ホストの家	<p>パンを毎日食べていたため、すごくお米を食べたくなりホストファミリーにお願いしました。スーパーで私が選んだお米を炊き、ホストマザーがおかずを作ってくれました。私がなんのソースにしようか迷っていたら、醤油があることを教えてくれ、久しぶりに日本の味を堪能しました。</p>

19:30

うさぎの餌やり 近  
所の家




ホストファミリーの近所の方  
が、イタリア旅行に行ってい  
るため、ペットのうさぎに餌  
をやりにいきました。2匹と  
もすごく可愛くて癒されまし  
た。

4日目 8/4(日)

担当者:金田 千紘

時刻	場所	内容
9:00	朝食	ホストマザーがバイエルンの伝統的な朝食である Weißwurst を用意してくれました。ホワイトソーセージは皮をむいて食べると教えてもらいましたが、ナイフとフォークに使い慣れていなかったため、とても難しかったです。
11:10	出発	ホストファザーの運転で Glenteleiten に向かいました。高速道路では最高時速 180 キロで走っていたので、とても驚きました。
11:40 -15:00	Glenteleiten	私のホストファミリーと藤井さんのホストファミリーと一緒にきました。ヴォルフラーツハウゼン市から車で 30 分ほどの場所にある野外博物館で、実際に使用されていた建物や道具の展示されていました。また、農業技術や伝統文化を体験するワークショップも行われていました。パンの生地を棒に巻いて焚火で焼いたり、伝統的な音楽に合わせてワルツを踊ったりと、とても貴重な体験ができました。



16:00	帰宅		<p>一緒にオリンピックを観たり、UNOで遊んだり、ケーキを食べたりして、ホストファミリーとの時間を楽しみました。ホストマザーのお母さんが手作りしたベリーパイがとても美味しく忘れられない味です。</p>
19:00	夕食		<p>ピザをテイクアウトして、みんなで分け合って食べました。平日は仕事があって全員の時間を合わせるのが難しかったので、一緒に食事をしながら色々な話ができ嬉しかったです。</p>

4日目 8/4(日)

担当者:近藤 壮輔

時刻	場所	内容
6:00	起床	(ホストファミリーの方は8時起床)まず朝起きて驚いたのが、なかなか朝食ができたと言われないのでいつ朝食の時間になるかを聞いたところ、私たちは遅めの朝食をとってお昼は食べない！と言われたことです。日本でもこのような家庭もあるのかもしれませんが、私が出会ってきた人の中で知っている限りこのような人はいなかったのが一番印象的です。 その後いつも通りパン屋さんへ。
10:00	出発	家を出て München 方面へ出発
11:00	München-Nymphenburg 植物園 散策	想像していたよりも面積的に広く、第一印象は「本当に1日では回りきれぬのだろうか」ということでした。実際は、この後 Nymphenburg 城に行く予定だったのでサクサク足早に回りましたが、それでも興味を惹かれるものが無数にありました。日本では見ることのできない植物があったり、日本で見ることが出来る植物でも、栽培方法が少し違っていたり、日本で植生的に見られる植物でも、日常的に見ている環境とは大きく異なっていた部分も多々ありました。 また一番興味深かったのは、「野菜の展示」をしていたことです。日本の植物園ではそのようなものを見たことがなかったので、とても印象強かったです。たまに来訪客がトマトを食べていたりする光景も見られました。そして日本の植物園とは規模が全く違い、世界の地域(「アジア」や「アフリカ」など)毎に温室が別れていたことが最も興味深かったです。
		
14:30	Nymphenburg 城 散策、城内見学	城内の展示用パネルがドイツ語で読めるのかどうかと想像していると、「日本語の音声案内があるらしいよ」とホストファミリーの方から聞きました。そのおかげで、より充実した観光になりました。 もとより世界史はあまりよくわからないのですが、よりそれに対する理解が深まりました。 (ちなみに昼食はありません)
		
15:30	出発	(途中で墓地(英:tomb、grave ではありません)を見学、路面電車で1ブロック分乗車、その後は車移動)
16:00	BMW(プラントやその周辺)到着、BMW	そこで、ナンバーの末尾にEがついている車は電気自動車であること、ナンバーの末尾がHの車は所謂「クラシックカ

博物館見学

一」であることを知りました。日本で見たことがあるような車から、初見の車も多くあり、圧倒されていた自分がそこにいました。





4日目 8/4(日)

担当者:篠崎 快

時刻	場所	内容
10:00	起床	
10:15	朝食	プレッツェルと白ソーセージのドイツの朝食を食べてとても美味しかったです。
11:30	電車	日本との電車の違いを感じることができました。
13:00	アリアンツアリーナ (サッカースタジアム)到着	私の好きなサッカーのスタジアムに行くことができ、滅多にできないことを体験することができました。ホストファミリーがスタジアムツアーのチケットを買っておいてくれたので内部まで入ることができ、とても楽しかったです。
		 
16:00	オリンピアパーク 到着	かつてオリンピックが行われた公園に行きました。その公園はちょうどイベントが行われていたのでイベントも楽しむことができました。
		
18:00	ホストファミリーの息子の大学 到着	日本の自分が通っている大学との違いを実際に見て感じることができました。
19:30	夕食	ドイツ名物のシュニッツェルを食べてとても美味しかったです。
21:30	就寝	1日歩き回っていたのでとても疲れてすぐ寝てしまいました。

4日目 8/4(日)

担当者:金子 柚良

時刻	場所	内容
9:00	出発	家族みんなで高速に乗りノイシュバンシュタイン城へ行きました。日本と走行が反対だったので乗っていて不思議な感じがありました。
11:30	ノイシュバンシュタイン城 到着	ノイシュバンシュタイン城に到着し、15:00 のチケットが取れました。まだ時間があったので、早めのお昼を食べました。お昼はホットドッグとアイスコーヒーを食べました。アイスコーヒーは日本と違い、コーヒーの上にアイスが乗っていてとても美味しかったです。
13:00		お城に入るまで時間があったので湖へ行ってボートに乗りました。水が透き通っていて、湖から見えるお城がとても綺麗でした。ボートも気持ちよかったです。
15:00		ノイシュバンシュタイン城の中へ入り、ガイドさんの説明を聞きながら、絵の説明や部屋の説明などを聞きました。
16:30		 <p>ノイシュバンシュタイン城は高い場所にあるため、帰りは馬車に乗って下まで降りました。</p>
18:00		夕食

4日目 8/4(日)

担当者:湯浅 凜花

時刻	場所	内容
8:00	朝食 ホストファミリー宅	 <p>テラスで朝ごはん♪ マンゴージュースとフルーツティーをミックスしたターラ―家特性のドリンクをいただき、優雅な朝を過ごしました！</p>
9:30  10:30	出発  ニンフェンブルク宮殿	<p>たくさんおしゃべりをしながらのドライブで、終始ワクワクした時間でした！</p>  <p>バイエルン王家の夏の離宮、ニンフェンブルク城。直訳すると「妖精の城」という意味のこのお城は、真っ白な優美さをもち佇んでいました。周りはハイキングコースともなっており、どこかゆったりとした時間が流れていました。日曜日の午前だったため家族の時間がぎゅっと凝縮されたような雰囲気を感じ、家族に入れてもらっている嬉しさをひしひしと味わいました。</p>
12:30	昼食 レストラン	<p>偶然入ったお店に、ホストファミリーのルイスが手がけた家具が置いてあって、話が盛り上がりました！</p>
14:00	ダッハウ強制収容所	<p>私の学んでいることに耳を傾けてくれ、受け入れてくれ、ここに連れて来てもらいました。 感謝しかありません。 想像はしていましたがやはり衝撃は大きく…感情がぐちゃぐちゃになりました。ここで感じた思いをずっと持ち続けていきたい、二度と繰り返さないためにはどうしたらいいのかを考え続けていきたいと強く強く思いました。ホストマザーにぎゅーっとしてもらって、心が少し軽くなりました。</p>

18:30 帰宅～近くの川にサイクリング



20:30 夕食 ホストファミリー宅

バイエルン地方の有名な筏下りの場所を見せてもらいました！



4日目 8/4(日)

担当者: 舘越 彩香

時刻	場所	内容
朝	朝食	 <p>朝食はエッグスタンドにゆで卵を載せナイフで殻を削りながら食べました。映画に出てくるヨーロッパ貴族のような食事方法がとても楽しかったです。</p>
午前	バイエルン国立博物館	<p>ドイツの歴史や文化を学びたいという私の希望を聞いてくれ、ホストファミリー全員で歴史と文化の両方を学べる施設を探してくれました。バイエルン国立博物館を訪れました。</p> <p>ミュンヘンに向かう道程は有名な高速道路アウトバーンを利用し、速度無制限の世界を体験しました。時速200kmの運転は風が車と当たる音が大きく、ハンドルを少し動かただけで車が左右に大きく揺れとても怖かったです。速度無制限は世界で唯一、ドイツのアウトバーンでのみ体験することが出来るため、高速道路がある意味一番の異文化体験となりました。</p> <p>バイエルン国立博物館はお城のような外見でとても大きくドイツだけでなくヨーロッパ各国の貴重な史料を見学することが出来ました。</p>  

<p>昼</p>	<p>イングリッシュガーデン 散策 昼食</p>		<p>その後、イングリッシュガーデンを散歩しビアガーデンで昼食を取りました。柵で囲まれたエリア内には多くの飲食店が存在し様々な店で食べ物を選びましたが、その場で支払いをするのではなく柵から出るときにまとめて支払いをするスタイルでした。飲み物にはグラス一つにつきコインが一枚着いてきます。グラスを返却する際にコインも返却することで飲み物代の一部がキャッシュバックされるシステムで高価なビールカップが盗まれることを防ぐためだそうです。支払い方法一つをとっても日本とは全く違うことが分かりました。</p>
<p>午後</p>	<p>ニンフェンブルク宮殿 散策</p>		<p>夕方にニンフェンブルク宮殿を散歩しました。ホストファミリーと様々な意見を交換しながら宮殿内のカフェに入りました。カフェからの景色が美しく時間がゆっくりと過ぎるよう感じられたことを覚えています。この一日でホストファミリーとの絆がより深まったように感じられたとても充実した一日となりました。</p>







**5日目**  
**8月5日(月)**



5日目 8/5(月)

担当者:湯浅 凛花

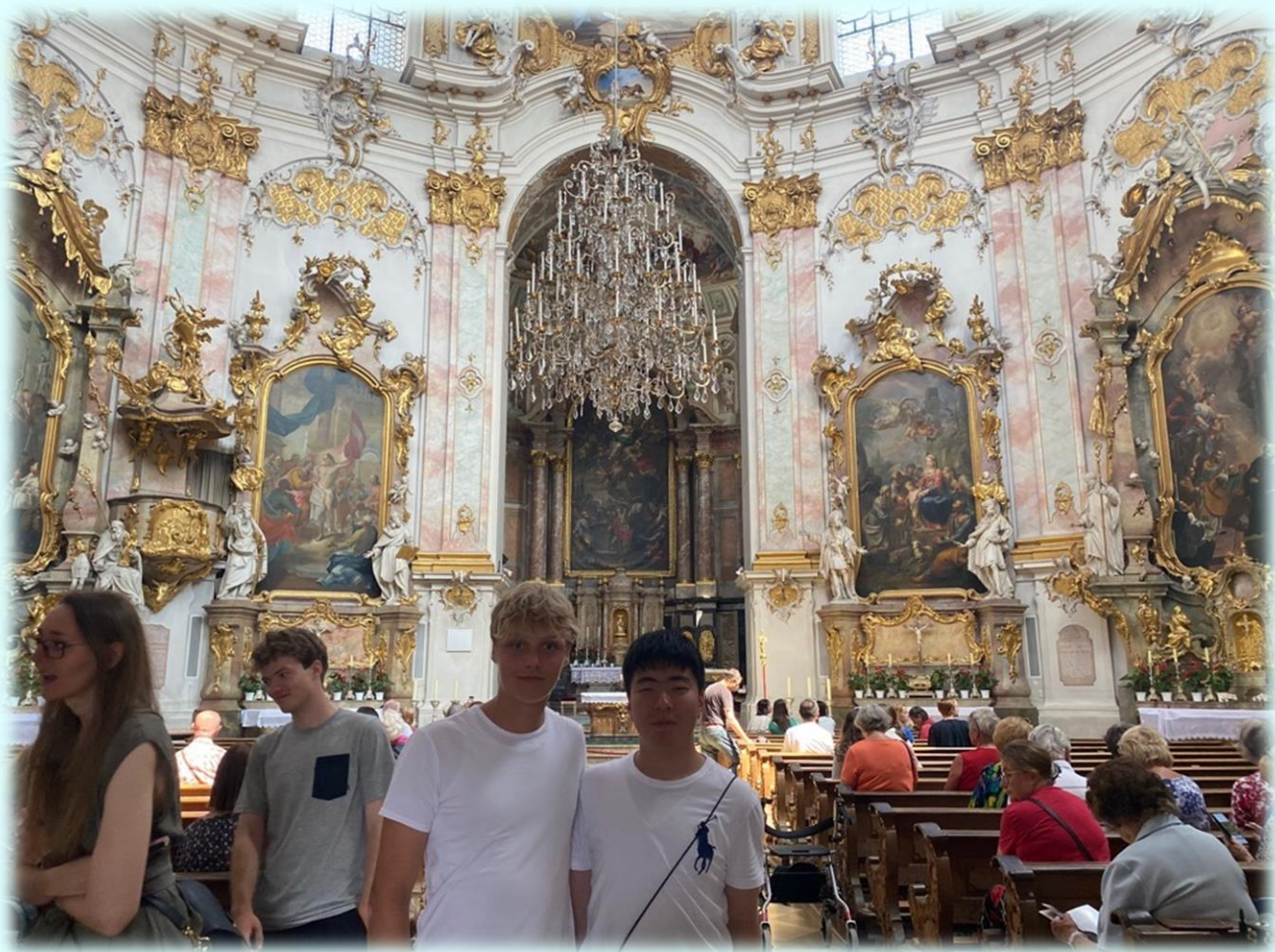
時刻	場所	内容
8:15	駅 集合	
8:45	Sバーン(鉄道の名前)	のどかで美しいドイツの田舎の風景にひたりつつ、電車で揺られてミュンヘンへ。
9:30	ミュンヘン駅 到着	バスの時刻までゆとりがあったので、近くのお店でショッピング!
10:00	観光バス ミュンヘン市内 観光	ミュンヘンという都市の起源、宮廷文化、そして知的インフラで栄える今について学びました。音楽好きの私にとっては、ミュンヘンフィルハーモニー管弦楽団の本拠地であるガスタイク文化センターの横を通れたことが嬉しかったです♪
11:30	昼食 ホーフブロイハウス	  <p>ドイツで一番有名なビアホール!ここに来たからにはとビールを注文!ミュンヘン名物の白いソーセージとプレッツェルも堪能しました。モーツァルトやエリザベートが訪れたことがあるなんて!想像すると胸がトキメキました。いつかオクトーバーフェストに行けたらいいな!</p>
12:00	ミュンヘン市庁舎とその周辺 散策	<p>正午を知らせる Glockenspiel(仕掛け時計)がとにかく可愛い市庁舎!実は私は、この光景を見るのは2度目で、、、鐘の音を聴いた瞬間、初めての海外旅行に心躍っていた去年の気持ちがぱっと蘇って、なんだか泣きそうになっていました笑。まさかもう一度来れるとは思ってもみなかったもので、本当に嬉しかったです。</p> <p>教会や有名なバイエルン州立歌劇場、野外市場を散策しました。教会のカタコンベ(地下の墓)を見に行ったグループもあったようです。</p> <p>歩き疲れたところで、ミュンヘンによくおでかけをするというヘレンがカフェに連れて行ってくれました。美しい街並みを見ながら食べるケーキは格別でした!</p>   



16:00	イーザル門 集合 ヴォルフラーツハウ ゼン市到着	電車出発。お土産をたくさん抱え、たくさんおしゃべりをした帰り道。とても幸せな帰路でした！
-------	--------------------------------	--



**6日目**  
**8月6日(火)**



6日目 8/6(火)

担当者:近藤 壮輔

時刻	場所	内容
<p>8:00</p> <p>Marienplatz 集合</p> <p>9:00</p> <p>リンダーホーフ城 散策</p>		<p>リンダーホーフ城が小さいながらもその荘厳さに気圧されました。”西洋建築の城”というネームプレート掲げているようなお城でした。</p> 
<p>12:00</p> <p>昼食 Bräustüberl</p>		<p>バイエルン料理</p>
<p>14:00</p> <p>Ettal 修道院 散策</p>		<p>日本の「教会」等とは印象に大きな懸隔があり、その第一印象は「白い」というものでした。また、華麗に隅々まで整備された西洋式”庭園”があり、それにも心が惹かれました。</p>  
<p>16:00</p> <p>出発</p> <p>17:00</p> <p>ヴォルフラーツハウゼン市 到着</p>		



7日目  
8月7日(水)



7日目 8/7(水)

担当者: 舘越 彩香

時刻	場所	内容
8:25	集合	自転車に乗り集合場所へ 新鮮な空気と朝の光が気持ちよかったです。
8:30	青少年保護協会の方と交流	 <p>日本とは違う学校の仕組みや学童の取り組みを学ぶことができました。小学生と一緒に遊んだりカーテンを作りました。</p>
12:30	昼食	ハンバーガをみんなで食べました。外での食事はピクニックのようで気持ちよかったです。
13:30	jugendhaus la vida	jugendhaus la vida という学校の近くの学童のような場所でドイツの子供の成長や保護についての取り組みを学びました。日本にはない制度で素晴らしいと思いました。
14:30	市内散策	 <p>スーパーや本屋さんを自由に回りお土産を買いました。魅力的なものが多く買いすぎてしまいました。</p>
16:00	ホストファミリー宅へ一時帰宅	荷物の整理やお別れ会の準備をしました。
17:50	お別れ会 準備	レストランにてお別れ会の準備 折り紙や習字の準備が時間ギリギリになってしまい焦りました。
18:00	お別れ会 開始	  <p>日本のメンバーは法被を着ました。ドイツの方々は民族衣装を着ており、美しかったです。お世話になった方々の前での合唱がとても緊張しました。習字はホストファミリーと一緒にお互いの名前を書きました。ホストシスターが喜んでくれたことが嬉しかったです。</p>

21:30

お別れ会終了  
ホストファミリーの  
家へ帰宅

ドイツのお土産をたくさんプレゼントしてくれました。私が美味しいと言ったものを覚えておいてくれ「日本の家族に食べさせてあげて」と渡してくれました。家族全員で最後の晩酌をしました。テキーラを飲みながら一週間の思い出話をしました。本当の家族のように親切にしてくれ、とても仲良くなったため明日のお別れが辛く感じました。





# 8.9日目 8月8日(木) 8月9日(金)



8・9日目 8/8(木)・8/9(金)

担当者:藤井 葵

時刻	場所	内容
7:00 -7:30	朝食 ホストの家	 <p>最後のホストファミリーと食べる朝食でした。私が美味しいと言った食べ物を全部用意してくれました。最後に折り紙で作った鶴と手紙を渡しました。</p>
7:45	お別れ マリエンプラッツ	<p>みんなが持っているスーツケースや大きな荷物を見て、帰るんだなと改めて感じ寂しくなりました。バスが来ると多くの人が涙を流していました。特に私はホストファミリーが空港まで来れなかったのもので、ここでお別れでした。ハグをしてみんなで寂しさを分かち合いました。</p>
8:00	空港への移動 バス	 <p>バスの中ではお別れの時とは変わって、みんなで仲良く話をして笑い声がたくさん聞こえました。ミュンヘンの建物など最後にも新たな発見や学びがありました。</p>
9:45	チェックイン 空港	<p>空港では最後の試練がまっていました。それは預け荷物の重量調整です。たくさんのお土産で行きよりも荷物が重くなっていました。何度も計りに乗せ、23kg を超えないために協力して頑張りました。</p>
10:20	空港内探検 空港	<p>荷物を預けた後は少し時間が合ったため、空港内を探検しました。テラスに行き飛行機を見たり、何度も写真を撮ったりしました。</p>
11:00	最後のお別れ 空港	<p>出国の時間になり、本当のお別れの時間が来ました。再度会えることを願って、姿が見えなくなるまでみんなの手を振りました。</p>



<p>12:40</p> 	<p>移動 飛行機</p>	 <p>飛行機に乗り日本に帰れるのがどんどん楽しみになってきました。機内食ではうどんが出て、みんなで「日本の味だ」と美味しく食べました。行きは大きい揺れがあったので、また飛行機が揺れないか怖くなり、少しの揺れでもイスにしがみついていた。</p>
<p>9日 8:00 (日本時間)</p> <p>8:30 -12:00</p>	<p>移動 空港</p> <p>移動 バス</p>	<p>大きな揺れもなく、無事日本に着きました。入国カードを書き、荷物を受け取って日本に帰ったことを実感しました。</p> <p>入間市役所に向かうためバスに乗りました。暑さと湿度にびっくりして、これから日本で生きていけるのか不安になりました。途中のパーキングエリアでは、お茶やおにぎりなど日本を感じられるものを買いました。久しぶりの日本のコンビニやご飯に感動しました。</p> <p>12:00 入間市役所</p> <p>市役所の職員の方がお出迎えしてくれました。無事に到着したことを伝え、解散しました。</p>

# 学習の記録



## 学習の記録

ドイツ人の環境問題に対する意識、日常にある環境問題への取り組み

【氏名】 藤井 葵

ドイツ 4 位、日本 21 位、これは 2023 年の SDGs 達成度ランキングです。毎年順位を上げているドイツと比べ、日本は後退し続けています。日本でも SDGs という言葉は浸透しており、多くのことが取り組まれています。では、SDGs 先進国であるドイツとの差は何なのか。私はこの疑問を解決するために派遣期間中に、街での SDGs 浸透度や個人の取り組んでいる内容を調査してきました。



初めにドリンク容器のデポジット制度についてです。写真のこの機械はスーパーマーケットに設置してある回収機です。ドイツでは、ペットボトルや缶、瓶を購入する時に商品代とは別に容器の保証金を支払わなければなりません。ただ保証金は容器を返却すれば返金される仕組みとなっています。個人的に返却すれば割引になるよ、というやり方よりもプラスで支払ったお金が返ってくる方が損したくないから返そうという思考になり返却率が上がると感じました。回収の仕組みは、日本にも設置してあるものと似ているのですが、違うと感じた点が2つあります。

1つ目は、ペットボトルのラベルを取らないという点です。日本では飲み終わったペットボトルは本体、ラベル、キャップの3つに分け、それぞれ処分しますが、ドイツではラベルはつけたままです。機械にボトルを入れた時に商品のバーコードを読み取り、回収できるのか、保証金はいくらなのか判断するそうです。

2つ目は、保証金が現金で返ってくるところです。日本ではそれぞれのスーパーマーケットのポイントに変換という制度が多い中、ドイツでは現金にして渡してくれます。回収機から出てくるレシートをレジで渡すことでお金をいただけます。子供がお手伝いとして容器を返却し、代金をお小遣いとしてもらったり、スマートフォンの操作や複雑なポイント制度が難しく感じる高齢者などの方にも手軽に取り組める仕組みだと教えてもらいました。



次の取り組みはゴミ処理についてです。  
街中にある共有コンテナや服のリサイクルボックスにも連れていってもらいました。この写真は共有コンテナで近所に住んでる人が利用するボックスです。この写真は瓶を捨てるボックスになっており、ボックスの色と同じ色の瓶を捨てるものになっています。先ほどのスーパーマーケットでの回収機に入れてはいけない瓶もあるのでそれらの瓶はこのボックスに捨てます。



次の写真は古着回収ボックスです。それぞれのボックスの違いは寄付する場所です。右の緑ものは『テクスエイド』というスイス初の古着のリサイクルを行う会社です。他にもドイツの赤十字などが支援したいと思うボックスに古着を寄付することができます。街中で手軽に服を手放し、そして誰かに寄付できる一石二鳥のシステムだと感じました。

ホストファミリーと過ごす中でも環境保護に対する意識の高さを感じました。紙ナプキンは一回ではなく2回使ってから捨てる、ドリンクなどは冷蔵庫ではなく地下で保存する。など日常に少し工夫を足した取り組みがありました。

また、私は行く前にマイバック、マイボトルに続くマイ何かを見つけたい、今のところはマイストローだと思っていました。そこで、環境に配慮されたお店で質問をしてみました。そこで聞いた話がすごく記憶に残っています。それは、ストローは必要なのか。というものです。確かにストローがなくても飲むことができるし私の場合、家ではストローを使うことはありません。プラスチックを使用しているから、代替え品を探して使用しようというだけでなく、それはないといけないのか、本当に使う必要があるのかと一回考えることが大切だと気付かされました。

気候が異なり全く同じことをできるわけではないですが、日本にいても取り組めることがあります。大事なことは苦がなく日常に溶け込むようなことを地道に続けることだとホストマザーに教えてもらいました。自分が手軽に出来ることをたくさん積み重ね環境を守っていきたいと思います。

## 学習の記録

### 日本とドイツのSDGsへの取り組みの違い

【氏名】 金田 千紘

2023年のSDGsの達成度は日本は21位、ドイツは4位という結果でした。ドイツは環境先進国として知られ、環境問題に対する意識が非常に高いです。SDGsの中でも環境問題に焦点を当て、具体的に行われている取り組みや実際の生活で感じたことを紹介します。



ホストファミリーの家から集合場所のマリエンプラッツに行く途中に、Kolpingのリサイクルボックスを見つけました。Kolpingはカトリック教会と結びついた社会奉仕団体が、環境保護や社会支援活動を目的に設置されています。主に古着や靴、カーテンやシーツなどの布製品を回収しており、回収されたものはKolpingが運営する施設で仕分けされます。再利用可能なものは低価格で販売され、貧困者や支援が必要な方には無料で提供されることもあるそうです。再利用不可能なものは適切に処分または他のリサイクル方法に回されます。販売で得た収益は、貧困層への支援、難民やホームレスの支援活動など様々な社会活動に使用されています。



日本では、スーパーや学校などの公共施設にリサイクルボックスが設置されていますが、ヴォルフラーツハウゼン市で見つけたリサイクルボックスはそれらに加えて住宅地や公園などにも設置されていました。誰もが便利に利用できるアクセスしやすい場所に設置されることで、リサイクルへの意識が高まると感じました。このリサイクルボックスは環境保護を目的だけでなく、さまざまな社会活動に貢献していることが分かりました。支援が必要な方々にも手を差し伸べることができるという点で、非常に価値のある取り組みだと思います。



ドイツでの一週間の生活を通して、リサイクルをすることも大事ですが、資源を無駄にせずごみを出さないことも重要だと感じました。例えば、日本ではボックスティッシュが一般的であり、多くの家庭で使用されています。家庭によって異なるかもしれませんが、私のホストファミリーの家ではティッシュを使用する機会がありません

でした。食事の際には紙ナプキンが一枚用意され、口元や手が汚れたときはその一枚で対応していました。また、日本ではトイレにペーパータオルが設置されていますが、ドイツではロールタオルまたはハンドドライヤーが置かれていることが多かったです。ロールタオルは必要な分だけ引き出せる仕組みとなっており、使用したら自動的に次の部分が供給されるため、ペーパータオルよりも資源を減らす設計になっています。ティッシュはとても便利ですが、ごみを増やす原因でもあります。私たちにできることは、使用頻度を減らすということです。また、ドイツでは使い捨てのプラスチックストローやカトラリー、カップなどの生産が禁止されているという話を聞きました。日本でもプラスチックから紙の製品に切り替える動きが見られますが、まだまだプラスチック製品の利用率は高いです。紙ストローの利用やマイバックを持ち歩くなどの一人ひとりの意識が非常に重要であると感じました。

## 学習の記録

ドイツ人の環境の価値観や考え方

【氏名】 近藤 壮輔



①ミュンヘン市が市内の車両の速度制限 30km/h の区間を拡大した

これは、一般論的に考えると、「近くに学校ができた」や、「道路工事中だから(実際にミュンヘン市内は道路工事ばかりでした)」という結論になるかもしれません。自分自身も、道自体が特段広いわけではないですが、片側 2 車線の道でそのような光景を見かけたとき、「工事中だから」と軽く済ませていました。しかし、後にホストファーザーが、「この道は今年から、環境への負荷を減らすために制限速度が 30km/h になった」と言われ、とても感激しました。言われてみると、自動車が速度をあまり出さなければそれに従って燃料の消費量が減るのは確かなことです。自分の中には無い視点で、とても新しさを感じました。それに伴い、騒音は軽減され、交通の安全性も増し、一石二鳥、ましてや一石三鳥にもなると思いました。探してみるとさらにその有効性が見えてくるかも知れません。



②ドイツの電気自動車への優遇が段違い

ドイツでは、電気自動車への金銭面での優遇措置があるとホストマザーから聞きました。詳しく調べた結果、(i)100%電気自動車(内燃機関なし・完全に電気のみをエネルギーとして使う車)の自動車税が 10 年間免除を 2016 年より開始したり、(ii)それらの車両購入時に最大 75 万円を補助金として交付したりしています。また、(iii)政府は 9 億ユーロ(=1440 億円、1 ユーロ 160 円で計算)をかけ、EV を保有する一般住宅への充電器・太陽光発電システム・蓄電設備の導入支援、企業への急速充電施設の導入支援をすすめています。(i)や(ii)の効果は、2019 年では完全電気自動車の普及率は約 3%でしたが、2020 年には 13%、2021 年には 26%、2022 年には 31%と急激な上がり幅になっています。



同年の日本のデータと比較すると、日本の電気自動車の普及率は 1.85%となっています。数字が、ドイツと日本との政策などでの大きな懸隔を体現しているといっても過言ではないでしょう。

やはり日本でも欧州に倣いこのような取り組みをするべきです！なんて言ってもこのご時世の財政逼迫ではできません。どうしましょう。それは、「行政」のみ、「消費者(国民)」のみ、ではなく行政と消費者の両方にメリットが均等にあるような政策を取らなければなりません。でもまだそれも不可能に近いです。今は消費者が環境にできるだけ負荷をかけないような消費行動をすることが必要だと考えます。



### ③「パック」の削減

ソーセージなどのパッケージが簡略化されていたり、日本では見られない、買い物時商品棚から取った商品をそのままマイバッグに入れる光景を目にしました。これも、プラスチック製のカゴを減らすためだそうで、とても新鮮でした。



## 学習の記録

### 日本と違った街並みと歴史と文化

【氏名】 篠崎 快



私はドイツに行った1日目から日本との生活、文化、建物が違うことを確認できました。私がホームステイした家はとてもカラフルな外装であり周りの家もカラフルであったことが印象に残りました。日本ではカラフルな家や建物をあまり見ることがなく、日本ではシンプルで統一感のある家を好む傾向から控えめな色の家がたくさんあると感じました。ドイツではカラフルな色を好む人が多いためこのような家がたくさんあるのではないかと考えました。ドイツでは夏の日照時間が長くサマータイムが導入されているためカラフルな家であることで明るい光の下で映え、明るい印象をもたらすからではないかとも考えました。

ヴォルフラーツハウゼン市役所のデザインは街並みと調和しており、入間市役所のデザインはシンプルで機能的な造りをしています。さらに、ミュンヘン新市庁舎では都市の歴史を表す建築であり観光地化しておりたくさんの観光客が訪れています。日本では災害が多く、特に地震に対する耐震性の強い建物を作る必要がありますがドイツでは地震がほとんどなく耐震性のある建物を必要としないため様々なデザイン重視であったり、古い建物が今世まで残りやすいという点で優れていると感じました。

次に感じた違いは食文化の違いです。ドイツでは白ごはんをほとんど食べることがなく、主食がパンでした。それに加えてご飯の量が多いということも驚きでした。1日目の歓迎会では、同じ時間に同じ料理を提供されたがホストファミリーが私の半分の時間で完食していたことが日本や日本人との違いを感じることができました。



次に、歴史や文化です。私たちが見学したリンダーホーフ城では西洋の建築でありバイエルンの王様ルートヴィヒ2世の建造物です。ドイツのお城は平和な時代の象徴を表しており王様の趣味であったり、庭だけでなくお城の内部まで非常に華麗で装飾的でした。

一方、日本の城は和風の建築であり戦国時代や江戸時代に築かれたものが多く、軍事的な要素が強いです。石垣であったり堀を作り防衛のための構造である。日本の城の内部は、機能的が重視されています。ドイツのお城は平和を表しているため、ドイツの王様の趣味、芸術を表現しているということを学びました。ドイツでは貴族

によって発展していったため、このような文化が生まれたことを知れました。今回、ドイツと日本の異なる街並みや文化、歴史について学習したが、実際にドイツに行ってみて感じた違いや興味深い事がたくさんあったのでもっとこのテーマについて深めていきたいと感じました。

## 学習の記録

### ドイツの歴史的建物について

【氏名】 金子 柚良

今回のドイツへの訪問での目的は、ドイツの歴史的な建物や日本庭園を見ること、そして日本とドイツの建物の違いについて見て学ぶことでした。実際にドイツの教会やお城を見て、このような建物が何百年も前から存在していることにとっても驚きました。今回は、日本とドイツの建物の違いと、ドイツの歴史的建造物について私が思ったことを紹介したいと思います。



【日本とドイツの建物の異なる魅力は、】

日本の城:

- ・日本の城は様々な石を積み上げて作られた城壁や権力を表す天守閣などが印象的。
- ・主に木材を使用して建てられている。

ドイツの城:

- ・ドイツのリンダーホーフ城やエタール修道院は石垣などはないですが、金箔で装飾された天井や壁、豪華なシャンデリア、精緻な彫刻などが多く見受けられた。
- ・ドイツの建物は石造で、厚い石の壁が特徴的。

どちらの国の建物もとても魅力があります。ドイツに行ってみて、普段は写真でしか見ることができなかった建物を実際に自分の目で見ることで迫力の凄さを改めて実感しました。





#### 【ドイツの歴史的建造物】

ミュンヘン新市庁舎では、ドイツ最大の仕掛け時計を見ることができました。建物の先端の尖っている部分や細かい装飾、高さ100メートルに及ぶように、ドイツの歴史的な建物でよく見られるネオゴシック様式の特徴を見ることができました。

夏は11時、12時、17時の3回のみ仕掛け時計から等身サイズの32体の人形が10分間動き出します。この仕掛け時計が1908年以降、止まることなく動いていると考えるととても感動しました。



#### 【ドイツの街並みの中にある日本庭園】

日本とは違う街並みの中に日本庭園があり、不思議さと同時に懐かしさを感じました。そこには家族連れやカップルなど多くのドイツの方がいて、日本庭園の良さが伝わっているような気持ちになり感動しました。



今回、日本とドイツの歴史的な建物の違いや、ドイツの伝統的な様式を見ることができとても嬉しかったです。本や写真でしかみることができなかったものを、ドイツに行き、実際に自分の目で見て体験することが一番勉強になり、人生の素晴らしい経験に繋がると強く思いました。ドイツについて今まで以上に興味を持つことができました。

## 学習の記録

### ナチス時代の負の遺産を知ること

【氏名】 湯浅 凛花

私は大学で音楽学を専攻し、音楽と社会や政治との関わり合いに関心を持っています。卒業研究では、ナチス政権下で音楽がプロパガンダとしてどのように悪用されたのかをテーマに取り組む予定をしています。そのため、今回ドイツに派遣していただきテーマを設定し学びを深める上で、実際に強制収容所跡に足を運ぶことは必然のように感じました。

しかし、ホストファミリーとの大切な1日を使って行きたいと伝えることには、躊躇がありました。「行きたい」と言うことが適切なのか、またその意図を誤解なく伝えられるか、不安だったからです。それでも、丁寧に思いを伝えたところ、ホストマザーは優しく受けとめてくれました。「1人で行くのは怖かったからありがとう」と伝えると、ぎゅっと抱きしめてくれました。娘のヘレン自身も学校の社会科見学で二度訪れた経験があり、ドイツの徹底した歴史教育について話してくれました。自国の加害の歴史に正面から向き合い、二度と繰り返さないという決意を教育に反映させている姿勢に、はっとさせられました。私は、日本がしてしまったことを全て知っているのだろうか、知らずに誰かを傷つけてしまったことがあるのではないか、、、。日本では第二次世界大戦を語る際、被害者としての側面に重点が置かれる傾向があると感じ、少し怖くもなりました。



訪れたダッハウ強制収容所跡は、ミュンヘンの北西に位置する静かな町にあります。1933年、ナチスがここにドイツ初の強制収容所を設置し、多くのユダヤ人や反ナチスのドイツ人、ポーランド人が収容されました。囚人の数は188,000人を超えたと言われていますが、その正確な数は把握することができません。日本語での音声ガイドが完備されており、丁寧に学ぶことができました。

収容所内を歩くと、写真や拷問の描写、監視塔などが目に入り、その非人道的な実態に足がすくむ思いでした。復元されたバラックの狭さやその数を目の当たりにし、これほど多くの人々がこの地に押し込められていた事実という言葉を失いました。火葬場にはどうしても足を踏み入れることができませんでした。囚人たちが無理やり歌わされた音楽に関する展示もありました。音楽は日常生活やアイデンティティと深く結びついたものです。それを利用して人々を支配しようとした事実、胸がつぶれる思いがしました。

また、敷地内には教会がありました。キリスト教、ユダヤ教、それぞれの宗教の教会が並ぶ中で、壁が取り払われたシンプルな教会がありました。異な



る宗教間の和解を象徴するこの教会に、宗教が持つ大きな影響力とその難しさを痛感させられました。

様々な価値観や特性を持っている人達が、互いの存在を尊重し合いながら生きていく社会をどうやったら作ることができるのでしょうか。文化が違っていると違うところがたくさんあります。でも、一方で、同じところもたくさんあります。笑うこと、嬉しく思うこと、別れを寂しく思うこと、誰かを大切に思うこと。その感情は言葉が違ってても簡単に読み取れます。繋がることができます。この短いホームステイの期間でも、私は何回も「繋がった」と思える経験をしました。ひとは、自分と違うところに目を向けてそれを「怖いこと」として捉えがちですが、いかに面白いと思えるか、そして同じところにも目を向けられるかが大事なのではないかと思います。

知っていることと、強制収容所跡で実際に見聞きしたこととは、その重さが全く違いました。感じた思いを絶対に忘れず、自分ができることを問い続けていきたいです。多様な価値観に目を向け理解し、日本のこと、自分のことを客観的に振り返ることができる人になりたいと強く感じました。

## 学習の記録

### ドイツの教育について

【氏名】 舘越 彩香

#### ○ドイツの学校制度について

ドイツでは10歳で将来の分かれ道となる大きな選択をします。6～15歳までを義務教育として過ごし、10歳までは基礎学校に通い初等教育を受けます。その後、大学進学を目指す人は5年生に編入という形で学業を継続し、働くために専門的な知識を身につけたい人は15歳までを基幹学校や実科学校で学びます。日本では高校3年生の18歳の時に進路を決定することが一般的なため将来について考える年齢の違いに驚きました。

また、大学の制度についても日本との違いを見つけました。ドイツの大学はほとんど学費がかかりません。学生の生活費に関しても保護者の年収により政府から支援金が補助されます。ドイツ人だけでなく留学生に対しても学費無償、ドイツ国内の交通費の補助があり学生が非常に生活しやすいと思いました。ホストファミリーの話によるとドイツ人は子供たちにきちんとした教育の場を提供するという考えが根付いており、義務教育の際に教育の大切さを学んだと言っていました。とても素晴らしい制度だと感じた一方でドイツは賃金に対する租税が高い国の一つであり、国税庁のサイトによると世界で14番目に税金が高い国とされています。

以上の点からドイツの教育制度について私が感じたことは、早い段階から将来について考え準備をすることができる、という利点がある一方でわずか10歳というあまり社会を知らない状態で一生のことを決めてしまっても良いものなのか、また働く際に高すぎる税金が負担になってしまうのではないか、というマイナスの面も学ぶことができました。



#### ○ドイツの学童について

今回の訪問で小学3～4年生の子どもたちが通う学童を訪れました。ドイツの学校は12時に終わるため多くの生徒たちが13時頃から学童でお昼ご飯を食べ15～16時に保護者が迎えに来るまでを学童で過ごします。

ドイツの学童は個人事業主や企業が州や市と連携することで運営しています。年齢により通う施設が変わり、通う施設を選ぶのは市や町が行い、子供の怪我や病気での迎えに備え保護者の職場から近い施設を選ぶ場合があるそうです。保護者が学童に収めるお金は月約4万円で他は税金の補助により成り立っています。



学ぶ内容は自然に触れたり、ものを作ったりと様々で私はここで初めて土から生えているカブを見ました。カブをお店で売られている状態でしか知らなかったのですが実際に育てている現場を見ることで、土から少し出た状態でカブの食べる部分が育つことや茎が身の部分からも生えること、根の部分を食べる根菜だと思っていたカブが実は胚軸という茎の部分を食べているということを知りました。机の上で学ぶだけでは得られない体験することの大切さを感じました。

ドイツの学童は学校と同じくらいの時間を過ごすため学校の学びと学童の学びが同等の比重で力を入れていると感じました。







### ○Jugendhaus La Vida

ここは学校の校庭にある子供たちが自由に過ごせる場所です。親と喧嘩をした子供が逃げるシェルターであり、履歴書を書く手伝いや友達と遊ぶ場や、アルバイトをする場所でもあります。

建物を作るためにバイエルン州が補助金を出しヴォルフラーツハウゼン市と周りの自治体が共同で職員や施設のお金を出して作られました。市長がどの程度のお金を子供にかけるか決めるため市によって施設が違いますがドイツ全土に似たような施設があります。

日本同様核家族化が進む中で今までは祖父母が担ってきた親に怒られた際に子供の味方をする立場がこの施設なのではないか、と感じ子供に寄り添った考え方がとても良いと思いました。

# 訪問団全体報告書



## 訪問団報告書

「たくさんの初めまして」

【氏名】 藤井 葵

今回のヴォルフラーツハウゼン市訪問はたくさんの初めてを経験しました。ヨーロッパに行くこと、ホームステイをすること、ドイツの街並みを見ること、ドイツ語を話すことなど思い返すと全てのが初めてでした。

飛行機の中では、ホストファミリーの名前覚えられるかなから始まり、たくさんの不安がありました。しかしそんな不安は1日ですぐに無くなりました。これはホストファミリーやヴォ市の方のおかげです。初めてホストの家へ行った時には、リビングのドアに「いらっしやいませ」と書かれた紙が貼ってありました。他にも「おかえり」「いただきます」「おやすみ」などたくさんの日本語を勉強して、私を受け入れてくれました。何も話さなければ伝わる可能性は0%だと考え、簡単な単語や翻訳機を使い、今の自分にできる最大限の努力をしました。ホームステイの後半には日本について説明したり、今日あった出来事を話したりと日本で過ごすのと同じ会話ができることが嬉しかったです。ホストファミリーと毎日一緒に食べる夕食は、今回の研修で1番楽しかったです。今日あったことを話し、どのソーセージが1番美味しいのかを会議をしたり、みんなでパリオリンピックをテレビで見たりなど日常なことではあるが、家族の一員として過ごすことができたのが私にとってすごく特別な時間でした。



この研修では毎日たくさんの予定があり、ドイツの建物、自然、食べ物、宗教、歴史、教育など多くのことを学ぶことが出来ました。建物に関しては、リンダーホーフ城の見学が記憶に残っています。豪華な建物や噴水の裏には決して華やかな歴史だけがあるわけではないことを知り、ルートヴィヒ2世の心情などをさらに読み取れるよう勉強を重ねたいと感じました。



1週間過ごした中で1番衝撃だったのは、子どもたちの高い言語力やドイツに関する知識の豊富さです。どの見学場所でも多くの方が英語で説明してくれました。そんな彼女たちはまだ12歳や14歳など私よりもいくつも歳下の子たちです。自分は日本について英語で説明できるのかと考えるとかなり難しいと思います。来年は私が日本について入間について教える番です。今回私がたくさんのことを学べたと感じたように来年はみんなに日本について知ってもらい、興味や関心を持ってもらいたいです。そのためにこれからも学びを続けていきたいと思いました。

今回の研修は、ヴォ市の方の温かさに触れ、多くの友人との出会いを作ることができました。これは入間市やヴォ市、交流協会など多くの方の支えがあったことです。本当に感謝しています。ヴォ市やドイツの学びを続け、多くの方に恩返しできるよう頑張っていきます。これからも素晴らしいヴォ市と入間市の繋がりを発展を心から願っています。ありがとうございました。



## 訪問団報告書

「ドイツで過ごした一週間」

【氏名】 金田 千紘

ドイツでの一週間は、私にとって貴重で忘れられない経験となりました。初めての海外訪問だったため緊張していましたが、ヴォルフラーツハウゼン市の皆さんが温かく迎え入れてくださり、安心して過ごすことができました。写真を見返すたびに、その時の思い出が鮮やかに蘇ります。この訪問は旅行でも留学でもないからこそ、現地の方々と一緒に行動し、生活や考え方を直接知ることができたため、深い学びへと繋がったと思います。

特に、ホストファミリーと過ごした時間はとても印象に残っています。一緒に食事をしたり、文化や言語について教え合ったり、カードゲームやオリンピック観戦を楽しんだり、充実した時間を過ごすことができました。また、ホストファミリーの子供たちと一緒に折り紙や紙風船、けん玉などで遊び、日本の伝統文化に興味を持ってくれたことが嬉しかったです。お互いに英語が第一言語ではなかったため、会話が難しい場面もありましたが、ホストファミリーは私の話を一生懸命聞いて理解しようとしてくれました。ドイツに第二の家族ができたようで、本当に嬉しかったです。帰国してからも定期的に連絡を取り続けており、ドイツで築いた絆は今も続いています。



今回の訪問では、ドイツの自然や歴史的建造物、伝統料理など五感で楽しめるさまざまなプログラムが用意されており、とても貴重な体験をさせていただきました。教会や西洋の城を実際に見るのは初めてだったので、その歴史や建築を学べたことは興味深かったです。ホストファミリーとの一日ではバイエルンの農村生活が保存、展示されている Glentleiten に行き、生活様式や伝統文化などについて学びました。パン作り体験や鍛冶屋の作業見学、ダンスパーティーなどを実際に見て

体験することができてとても面白かったです。この訪問を通して、ドイツの文化や歴史、言語についてもっと知りたいという思いが強くなりました。また、訪問期間中にはドイツの方々と日本の文化について話す機会が多くあり、日本や入間の文化の素晴らしさを改めて認識することができました。

この一週間は本当にあっという間でしたが、ヴォルフラーツハウゼン市の皆さんとの友好関係を深めることができたことをとても嬉しく思います。今回の訪問を通して得た経験は、私にとって一生の宝物です。また、この訪問を通して出会ったすべての方々に心から感謝しています。今後もこの素晴らしい友好関係が続いていくように、日本に訪問団が来てくださる際には、私も温かく迎えたいと思います。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。



## 訪問団報告書

### 「ホームステイとドイツでの実体験」

【氏名】 近藤 壮輔

私は、初めは「ホームステイ」というものに対して不安感がありました。母語が英語の方と会話した最後の機会が小学校の Assistant Language Teacher との会話だったからです。それゆえ「自分の英語が現地の人と通じるだろうか」とか、「きちんと自分から話せるだろうか」などという今となっては愚考とも考えられるものがありました。しかし牧野さんに実用英語技能検定(英検)準 2 級持っていれば大丈夫と言われたのを後押しに行くことを決意しました。

プログラムが始まり、ホストファミリーである Fritzさんと対面した時、やっと現地に着いたという実感が湧いてきました。ホストマザーである Dagmar Fritzさんが市の同行職員として昨年青少年と共に来られた時に、一緒に食事をしながら会話をしたからです。

まず家に着いてから知ったのは、息子さん(自分と同年代)が EU 圏内の国で海外旅行中だということ、娘さん(20 歳前後?)がミュンヘン市内に友達と住んでいるということでした。EU 圏内の旅行がどれだけ簡単かを知りました。その後、ホストファミリーの方が来週から海外へ旅行へ行って(国名は忘れてしまいましたが EU 圏内の国です)、その後ホストファーザーはイタリアへ、息子さんはスペインへ旅行に行くことを聞いて尚更驚きました。たまに自分がわからない単語やその他フレーズなどがあると解説してくれたり、ドイツ語の家族内の会話を英語で教えてくれたりしました。また、息子のエリアスは帰国後一緒に買い物に行ってお土産は何がいいかと聞くと、このお菓子は国内でとても人気だ、とかこれはとても健康に悪い、これは味がとっても悪いなど細かく教えてくれました。



お別れ会前日が家族の中のことで一番記憶に残っています。その日はツアーから帰ってくると、家ではバーベキューコンロが用意されていました。その後、一緒に湖へ行かない?とホストファーザーに言われ、エリアスと彼の友達?と一緒に 4 人で森の中へ入って行きました。ずっと線路沿いを歩いて、その後高台に着くととても眺めがよく、イーザル川からヴォルフラーツハウゼン市を一望で

きました。そこからまた 20 分くらい歩き、イーザル川と運河の合流点まで歩き、そこから運河沿いに歩いて湖へ行きました。その湖は、とても浅く、広がったため、たくさんの人が泳いでいました。その後家に戻ると、娘さんとホストマザーが料理(サラダや生肉)を用意していて、ホストファーザーが焼いてくれた肉を食べました。ホストマザーが昨年日本に来た時に買ったスパイスソースをつけて食べました。なぜこれを買ったのかを聞くと、この瓶に書いてある顔が面白かったから、と言っていました。



このプログラムを通して、ヨーロッパ圏に住む方々のライフスタイルや考え方、そして学習の記録にある環境についても大いに学ぶことができました。また日本にはない視点を学ぶこともできました。雄大な自然にも感謝を込めて。





## 訪問団報告書

### 「ドイツでの変化」

【氏名】 篠崎 快

ドイツで過ごした1週間はとても忘れられない期間になりました。私にとって初めての海外で何もかも不安で緊張の多い1週間でした。しかし、とても得ることの多い時間になりました。

昨年、この青少年訪問事業をホストファミリーとして体験したことで英語や外国人との交流についてとても興味を持つことができ、1年前は家に来てくれた青少年と英語であまり対話をする事ができず申し訳ない気持ちが募りました。その後英語で自分の言いたいことを伝えたいという思いを胸に1年間英語の勉強をがんばりました。それによって私は忘れられない思い出を、ドイツ人のホストファミリーや職員の方々と作ることができました。帰国してから今まで、撮った写真を見返してしまいます。私はドイツに住んでいる人たちの家にホームステイできたことに恵まれていると感じました。なぜなら、ホテルで泊まる場合は、ホテルに着いてしまったら英語も話さず日本語だけで会話を行ってしまうことに加えて、ドイツに関することや歴史、さまざまな情報を知ることができなかったと考えました。ホストファミリーとの生活を通して実際に自分がドイツに住んだことの想像ができて、ドイツ人の習慣や文化と一緒に過ごすことで感じる事ができました。日本の文化しか知らず、日本でしか住んだことのない私にとってこの経験は自分の考えや価値観が変わった境界になったと私は思います。ホストファミリー宅では自分の国のことや自分の身の回りについてを共有しあったことで、自分のまわりについて共有する機会があまりなかったのもとても新鮮でした。

私はこの訪問事業を通して最も興味を持ったことはドイツの歴史についてです。ドイツにはさまざまな興味深い歴史があり、学校で学んだこともありましたが実際に教会やお城などの歴史がある施設に行くことや、話を聞くことで知識がさらに頭に残りました。ドイツには迫害が行われてきたアウシュビッツ収容所などの歴史的な場所やベルリンの壁などが残っているため、次ドイツに行く時はただの観光ではなくて勉強も一緒にしたいです。

1年間英語を本格的に勉強していましたが、言葉の壁があることに不安を感じていましたが、ホストファミリ



一の優しさや積極的に会話をしようという気持ちを持っていたことで言葉の壁を簡単になくすことができました。ホストファミリーが私たちのためにさまざまなことを尽くしてくれたので、来年自分がホストファミリーとなった時に青少年に良い思い出を持ってもらい、日本、入間市はとても良い場所だということを感じて欲しいです。

## 訪問団報告書

### 「最高の経験」

【氏名】 金子 柚良

私はこれまでにオーストラリアや韓国、台湾へ行った経験があり、それぞれの国の文化や料理を楽しむことができたので、今回のドイツへの訪問もとても楽しみにしていました。

現地に到着すると、ヴォルフラーツハウゼン市の方々やホストファミリーが温かく迎えてくれました。ホストファミリーと初めて会った時は緊張していたため、上手く話せませんでした。ホストファミリーから「疲れてない？飛行機で寝られた？お腹空いてる？日本では何してるの？趣味は？」などと色々なことについて話しかけてもらえたことで、一気に緊張がほぐれ、初対面でしたがすごく暖かい家族だなと感じました。ヴォルフラーツハウゼン市の皆さんもとてもフレンドリーで、楽しい初日を過ごすことができました。

私はドイツの歴史的建造物や、日本庭園に興味があったため、今回ミュンヘン新市庁舎やマリエンプラッツ、リンダーホーフ城へ行き、実際に自分の目で見る事ができて、とても感動しました。また、ドイツで初めて知ったこともありました。それは「マイバウム(5月の木)」というものです。これは5月1日に地域の方々が作り建ててお祭りをするという伝統的な文化です。この木はチームで協力して建てるため、団結力が高まり、仲が深まるきっかけにもなると聞きました。

さらに、5月1日の6週間前から、その町の子どもたちは隣の町の青少年たちが盗みに来る可能性があるため24時間体制でこの木を守らなければならないことや、もし木が盗まれてしまうと、隣のビールを買わなければならないということを教えてもらい、こうした文化を体験したことがなかったのでとても興味深く感じました。

この木はドイツの様々なところに建っているため、ドイツ滞在中色々なマイバウムを見ました。地域によって異なる魅力のあるマイバウムを見ることができ嬉しかったです。





ホストファミリーも本当に優しく、本当の家族のように接してくれたので毎日楽しく過ごせました。1日だけホストファミリーと過ごす日があり、その日はサプライズでノイシュバンシュタイン城に連れて行ってくれました。想像より遥かに大きいお城、中に入ってみると100年以上前に建てられたとは思えないような綺麗な作りでした。まさか、行けるとは思っていなかったのでノイシュバンシュタイン城に行くことができすごく嬉しかったです。

このドイツ訪問では、これまでにない新しい体験をすることができ、私にとって非常に充実した9日間となりました。ホストファミリーをはじめ、ヴォルフラーツハウゼン市の方々や違うホストファミリーの子たちとも仲良くなることができとても良い経験になりました。



## 訪問団報告書

「かけがえのない 9 日間」

【氏名】 湯浅 凜花

ドイツの方と友達になること——それは私の長年の夢でした。幼い頃から、ドイツに住んでいたことのある祖父母の話に耳を傾け、ドイツの文化や人々への憧れを育んできました。また、音楽の発祥地としての深い歴史に触れるたび、その地に行きたいという思いはますます募っていきました。そのため、その夢が叶った今回の 9 日間のホームステイは、私の人生においてかけがえのない特別な時間となりました。

ヴォ市で迎え入れてくれたのは、温かく親切なターラー家の皆さんでした。初日、ホストファミリーの家に入ると、部屋のドアには「ドイツへようこそ」と書かれたプレートが貼られていました。そのささやかな心遣いに、長旅の疲れが一瞬で消え、胸がいっぱいになったのを覚えています。2 日目の夜には、お父さんが焼きそばを作ってくれました。それだけでも驚きだったのに、日本のお箸まで用意されていたのです。異国の地での暮らしは初めてでしたが、その一つ一つの行動が、安心感と喜びを与えてくれました。

ホストファミリーとの日々は、まさに夢のようなものでした。私と同年のルイスが車を運転し、彼の恋人イエレナや一番仲良くなったヘレンと一緒に、スキー場のアスレチックや田園風景が広がるドライブに連れて行ってくれました。お互いに知っている曲を歌い合いながら、車に揺られていきました。窓の外には赤い屋根の家々や教会の鐘の音が響く美しい風景が広がります。その光景はあまりにも絵画のようで、瞬間瞬間がとても楽しくて、、、目に心に焼き付けようと必死になりました。

また、日常生活を共にする中で、旅行では見えない文化の違いを肌で感じることができました。4 日目、ホストファミリーが「東京の一人暮らし」というドキュメンタリーを録画しておいてくれ、一緒に観る機会がありました。政治について意見を求められる場面もあり、日本人特有の「自分の思想を表に出さない傾向」について考えさせられる瞬間がありました。緊張しながらも自分の言葉で一生懸命に伝えようと、拙い英語ながらも真剣に耳を傾けてくれる彼らの姿に勇気づけられ、「通じ合えた」と感じる喜びを何度も味わいました。

一緒に折り紙を折ったり、浴衣を着てもらったりといった文化交流もしました。逆に私もドイツの民族衣装ディアンドルを着せてもらいました。



9日間で1番心に残っているのは、湖で家族全員と過ごしたひとときです。笑い声が湖畔に響く中で、自然と心が通じ合っていくのを感じました。午後9時頃、湖畔で夕食を楽しみながら眺めた夕日。オレンジがだんだん消えていき深い青になっていく、、、その移り変わる美しさに息を呑みました。そのとき撮った写真は、私の一生の宝物となりました。



「あなたには、もうドイツに家族があるでしょ」

帰国の日、ホストファミリーがかけてくれたこの言葉に、思わず涙が溢れました。この9日間で築いた友情と絆は、何ものにも代えがたいものでした。この経験を通して、私の中で「つながる」ということの本当の意味を知ることができました。この機会を与えてくださった皆様に、本当に感謝いたします。



## 訪問団報告書

### 「人生初の経験」

【氏名】 舘越 彩香

私はこの夏、人生で初めての経験をたくさんすることが出来ました。

そのうちの一つがホームステイです。初めての渡欧に加え、初対面の方の家に滞在することに最初はとても緊張し不安を感じていました。しかし、空港にお迎えに来てくれたヴォルフラーツハウゼン市の方々や歓迎会で出会ってすぐに私の荷物を持ってくれたホストファミリーのおかげですぐに不安は消え仲良くなりたいと思うようになりました。

日程が進むにつれホストファミリーやファミリーの友人たちと仲良くなり3日が経つ頃には本当の家族のようにホストマザーに希望を伝え、ホストシスターと遊びに出かけるようになりました。毎回の夕食でその日の出来事を話し家族とコミュニケーションをとる輪に自分が入れたこと、当然のように私を家族の輪に入れてくれたことがとても嬉しく心が温かくなりました。



二つ目の人生初の経験は異文化を見つけることです。

旅行だけではなかなか経験することのできない細かな異文化を学ぶことが出来ました。ドイツの学校に実際に訪れたり、ホームステイを通じて家庭料理や普段の生活を知ることが出来たことが面白かったです。ドイツのアパートは日本と違い庭付きの部屋が一般的であったり、オーブンが多くの家についており郷土料理もオーブンをを使うものが多いこと、朝はなるべく火を使わずに簡単なもので済ませること、日本よりも家族や友人の絆を大切にし友人関係や恋人との関係を家族にオープンに話すことなど日本との違いを見つけることが楽しかったです。

また日本との共通点を見つけられたことも面白かったです。日本ではギャグを言い滑ったときに「寒い」と表現しますがドイツでもギャグが滑ると「cold」と表現しており意外な表現の一致に驚きました。



今回の派遣事業で様々な自然や施設を訪れ、ドイツの歴史や人々の考え方、生活を学ぶことが出来ました。学校の授業やインターネットで調べるだけでは得ることのできない人の温かさや自然の素晴らしさ、伝統的な建造物の美しさなどを学ぶことが出来とても貴重な経験になりました。

今回の学びは私にとってとても価値のあるものになったと感じています。

